

地域コミュニティワークショップ実施報告

■実施概要

日時:平成27年12月19日(土)13時00分～16時00分

場所:道民活動センタービル かでる2・7 10階 1040会議室

参加者:26人出席

※無作為抽出により2,000人に案内状を送付し、参加申込があった市民を抽選。

内容:以下のプログラムで実施した。

- 13:00 開会、あいさつ
- 13:10 情報提供【30分】
- 13:40 ワークショップ①「地域課題とあるべき姿」【20分】
- 14:00 ワークショップ②
「地域コミュニティの活性化に向けた各主体の役割」【50分】
※主体ごとにテーブルを分けて、メンバーを入れ替えながら3回に分けて意見交換
- 14:50 休憩【10分】
- 15:00 ワークショップ②の振り返り【5分】
- 15:05 ワークショップ③
「各主体が役割を担うために必要なこと」【20分】
- 15:25 グループごとのまとめ発表【25分】
- 15:50 本日のまとめ【10分】
- 16:00 閉会

■実施状況(写真)



■ワークショップ①で出された意見

地域課題	あるべき姿	具体的な取組
<p style="text-align: center;">高齢化・単身高齢世帯の増加</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の孤立化・孤独死 ・地域活動の担い手の高齢化 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が地域活動を行う団体に所属している。 ・あいさつのできる関係づくり ・人との交流が生まれ、参加しやすい町内会活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り体制の確立(家族の連絡先の把握、見守る役員の配置等) ・参加につながる交流。
<p style="text-align: center;">子育て・教育</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てママの孤立化 ・子どもを狙う犯罪・危険・いじめ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の交流の場に参加(町内会の取組、子育てサロン、保育園など) ・顔を知っている関係づくり ・学校での見守りや情報発信 ・高齢者との交流(昔遊びなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察が地域と連携したパトロール ・児童館を活用する ・子育てサロンの活用 ・参加を促す情報発信 ・学校教育での普及啓発
<p style="text-align: center;">災害対策</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災機能の強化 ・避難所運営の困難 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の情報・連絡網の共有 ・冬季の避難経路の確保 ・コミュニケーションが取れる関係性 ・災害対策における市民意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・住居形態によらない情報共有・配布(回覧板・広報誌の利用) ・様々な組織による避難訓練
<p style="text-align: center;">地域コミュニティや連帯感の希薄化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会加入率の低下 ・地域活動への参加低下・担い手減少 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代で構成された活発な町内会活動 ・住居形態によらない交流 ・町内会との接点があり、町内会の情報の共有 ・働く世代でも負担のない活動 ・地域で子育て出来るような関係性 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の在り方検討 ・きっかけづくりと関心の高い人を発見すること ・若い人の意見を聞く、受け入れる ・役員構成を時代に合わせる ・行事やプログラムの見直し ・若い人、アパート・マンションへの働きかけ ・仕事との両立出来るような仕組みづくり

■ワークショップでの意見のまとめ（地域コミュニティにおける各主体の担うべき役割と役割を果たすために求められること）

	地域コミュニティにおける各主体の役割(主体別) (※ ワークショップのテーマ②での発言のまとめ)				
	市民	町内会	市民活動団体	企業・事業者	学校・児童会館
担い手育成のための役割(人材)	○地域への関心や愛着を持つ ○地域活動への参加(アイデアを出す、リタイヤした方の活用) ○周囲を巻き込んだ活動 ○地域活動をPRする ○地域交流(交流の場への参加) ○市政に関心を持ち、市民の意見を伝える	○市民の地域活動への参加を促す(普段からの挨拶、近所の人を誘っての参加) ○地域活動を行う人材の受入れ・発掘(若い世代を町内会役員に入れる取組、負担の軽いライトな活動の受入れ)	○ネットワークづくり ○各団体のノウハウを生かした人材育成 ○講師の派遣(コミュニティづくり、地域活動のレクチャー等)	○地元住民の採用 ○ボランティアとしての企業人材の派遣 ○若い世代との交流の機会の創出 ○地域との交流の機会の創出	○ボランティア活動による子どもたちの地域の愛着の創出 ○お母さん同士で子育てを教え合える関係性づくり(子育てが終わっても子育てサロンに顔を出せる関係) ○児童・生徒を通じて地域の人たちをつなげる
活動の活発化・参加促進のために役割(活動)	○地域行事への参加(お祭りなど) ○地域活動への参加(まちの清掃活動への参加など) ○近隣住民とのコミュニケーションと助け合い(挨拶や雪かきを手伝う等)	○子どもを対象とした活動の充実(ラジオ体操、盆踊り) ○世代間交流の活動の充実 ○活動や行事の継続 ○地域活動の機会の創出(若い世代やマンションの住人も参加できるような)	○地域イベントの企画(特にマンションでの交流のきっかけづくり) ○災害時の活動・対応 ○子育て支援(有償でも) ○専門知識を生かした地域行事への協力、地域課題の解決(趣味等サークル参加、地域ニーズの把握、独居老人の見守り等)	○積極的なCSRの活動 ○社員のボランティア活動(除雪、清掃活動等) ○地域行事への参加	○町内会との共同の事業(工作教室、ラジオ体操、草刈り活動等) ○親同士のつながりの継続 ○学校行事の地域への開放(バザー) ○見守り活動の継続
地域資源・ノウハウの活用(連携)	○地域のルールを守る(路上駐車をしない、雪出しをしない) ○交流できるグループへの所属(町内会に限らず)	○町内会同士の連携 ○町内会と企業との連携 ○町内会とマンションの管理会社との連携 ○学校・PTAとの連携 ○市民活動団体のノウハウを活用	○団体内部でのつながりづくり(子育てサークルなどでのマトモづくりなど)	○配達事業などによる見守り活動 ○災害時の食料の備蓄 ○企業が地域活動で貢献できることの明確化	○町内会と学校(生徒)のより緊密な関係づくり(レクリエーションの企画等) ○町内会と連携した事業の実施(運動会、昔遊び講座、神輿など) ○子どもを通じた他団体との連携の取組 ○地域と連携した学校の防災訓練
活動費・収益の確保(財源)	○町内会費や除雪費などの費用負担と理解の共有 ○行政サービスのコストへの理解	○時代に合わせた会費の徴収 ○会費の使い道が見える化(収益が少なければイベントなど事業の縮小)	○専門性の高い分野について町内会事業の一部を請け負う	○協賛資金の提供	○学校での収益を地域活動に還元する(バザーの開催、古新聞の回収など)
場・機会の創出(拠点・スペース)	○公共施設の利用	○町内会も地域住民も集まれる場所づくり ○民間施設の有効活用(診療所等) ○町内会館の管理、改修	○最寄の公共施設の活用(会館、コンベンションセンター、ちえりあ)	○地域イベントへの参加(イベントの協力、駐車場や施設や機材の提供)	○学校施設の活用(貸室として開放、親同士の交流の場、学校で子育てサロンの開催、学童保育の場、図書室の開放) ○地域の人の活躍の場の提供
情報発信・情報共有(情報)	○地域の情報を受け取る(市の広報を読む、会館の掲示板をみる) ○地域の情報の共有・伝達(回覧板を回す、困っている人に適切な行政サービスを伝える)	○町内会活動の情報発信(町内会のメリットのPR、加入パンフレットの配布、回覧板の管理) ○対面での声かけ	○地域の声を集約する役割 ○人と情報をつなぐ(困っている人がわかるように) ○活動団体のことを知らせる ○広報誌の作成・活用	○企業の地域活動の情報発信 ○企業の情報発信のツールの提供(コンビニの掲示板など)	○学校の連絡網を利用した交流に関する情報発信 ○学校の地域活動の情報発信
その他		・役員が高齢だと町内会費が高齢者対策に使われてしまう。 ・町内会という発想を変え、現状に合った町内会の新しい形を考えることが重要なのは。		・女性の登用をすべきでは ・地域貢献を行うことで、企業の求人への応募も多くなるのでは ・従来の商店街の代わりを担うと良いのでは。	・子ども対象の取組が一番無理ない ・子どもが何か気になる事をしていたりした時、親同士が知り合いだと言いやすい。注意しにくい社会になっている。

各主体が役割を果たすために必要なこと
(※ ワークショップのテーマ③での発言のまとめ)

【市民】
・地域活動の普及啓発やきっかけづくり(団体情報の発信や市政の情報発信)
【町内会】
・若い世代が参加しやすい町内会運営の支援
・町内会運営の改善(役員構成や任期の見直し等)
【その他】
・地域活動の社会的評価の向上

【町内会】
・町内会活動のノウハウの普及
【企業・事業者(メディア)】
・企業のCSRの促進
・地域活動のルールづくり(清掃活動を必ず行うなど)
【学校・児童会館】
・学校内に地域活動を行うための担当課の設置(地域連携課)

【共通】
・それぞれの団体との連携の仕方の情報提供
・市民と団体、団体と団体のマッチング
・地域活動における課題やトラブルなどのリスクの共有
・挨拶などのコミュニケーションやコミュニティについての普及啓発

【町内会】
・会費の見直し
・徴収方法の改善
・町内会費の活用の見える化
【共通】
・財源の補助

【町内会】
・町内会館の活用促進
【企業・事業者(メディア)】
・民間施設などの活用促進
【学校・児童会館】
・空き教室・廃校を利用するなど活用しやすい交流の場の創出
【共通】
・子育て、ママ友など、様々な切り口での交流の場の創出

【町内会・市民活動団体】
・情報発信の方法やノウハウの普及啓発
【共通】
・情報のとりまとめ、一覧化
・情報の拡散